

「上士幌町の甲虫類」の訂正と補遺. 2

芳賀 馨¹⁾・伊藤 勝彦²⁾The correction and supplement for
"The Coleopterous fauna of Kamishihoro Town, Hokkaido" (Haga et al., 2010). 2Kaoru HAGA¹⁾ and Katsuhiko ITO²⁾

はじめに

著者らは、本誌の前身誌である「上士幌町ひがし大雪博物館研究報告」に、「上士幌町の甲虫」と題して、町内に生息する甲虫類（昆虫綱鞘翅目）の総目録を発表し（芳賀ほか 2010. 以下「第1報」という）、本誌第3号に「上士幌町の甲虫類」の訂正と補遺」と題して、第1報に対する訂正と補遺を行った（芳賀 2016. 以下「第2報」という）。その後、第1報と第2報の双方に対して訂正を要する事項が判明したので、ここに訂正を行いたい。

1. 誤同定の訂正

(SILPHIDAE シデムシ科)

1) (誤) *Thanatophilus lapponicus* (HERBST) カラフトオニヒラタシデムシ(正) *Thanatophilus sinuatus* (LINNAEUS) ヒメヒラタシデムシ

[館蔵標本] 糠平 (展示室: 1 ex., 採集年月日不明, 山之内統 [549(1)])

本標本は、第1報の共著者である川辺百樹氏がひがし大雪博物館に勤務していた時期に作成された、同博物館「第二展示室」(当時)の展示標本のリストに、「通し番号549 *Thanatophilus sachalinicus* KIESERITZKY カラフトオニヒラタシデムシ」として記載されている標本である。上記のリストは未発表の電子ファイルで、次に述べる収蔵庫標本のリストとともに第1報の基礎データとなった(注1)。このリストには、本標本に続けて、「通し番号550 (学名未記載) ヒメヒラタシデム

シ」の標本が5頭あることが記載されている(1頭の通し番号が5頭の標本に当てられているので、第1報では枝番号を与えて記録した)。芳賀は1989年4月2日に第二展示室の昆虫標本を閲覧した際、「カラフトオニヒラタシデムシ」という種名ラベルが付された標本1頭を視認し、その同定に違和感を覚えなかったことを個人のメモに書き残している。このため第1報では第二展示室の標本を再確認せず、学名のみを新しい図鑑のそれ(*Th. lapponicus*)に差し替えて記録した。しかし2018年6月25日に伊藤がひがし大雪自然館の現在の展示室を訪問して確認したところ、「カラフトオニヒラタシデムシ」という種名ラベルが付された標本がただ1頭、それに隣接して「ヒメヒラタシデムシ」という種名ラベルが付された標本が5頭あり、前者を標本箱から出して検鏡した結果、ヒメヒラタシデムシと同定された。

乙幡康之氏からの聴取によれば、上記6頭の標本を収納した標本箱は、ひがし大雪博物館がひがし大雪自然館に改組され建物が全面的に建替えられた際にも、開けられることなく箱ごと移動された。この経緯と、展示標本のリスト上の個体数が現存する標本の個体数と一致することを考慮すると、1989年に芳賀が見間違いを犯したと考えざるを得ない。上士幌町からのカラフトオニヒラタシデムシの記録は上記の展示標本が唯一のものであったので、上士幌町のファウナからカラフトオニヒラタシデムシが削除される。

2) (誤) *Mimela splendens* GYLLENHAL コガネムシ(正) *Aphodius rectus* MOTSCHULSKY マグソコガネ

[館蔵標本] 糠平 (収蔵庫: 1 ex., 21.VI.1971, 山之内

1) 〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町1-16-1-804

1-16-1-804 Nukabira-gensenkyo, Kamishihoro-cho, Kato-gun, Hokkaido 080-1403 Japan

2) 〒082-0017 北海道河西郡室町東7条6丁目1-15

1-15 East 7 jo 6 chome, Memuro-cho, Kasai-gun, Hokkaido 082-0017 Japan

統[12283]), 清水谷(収蔵庫: 2 exs., 4.IX.1970, 山之内統[12281, 12282])

本標本は、第1報の共著者である川辺百樹氏がひがし大雪博物館に勤務していた時期に作成された、同博物館「収蔵庫」(当時)の保管標本のリスト(未発表の電子ファイルで、前に述べた第二展示室標本のリストとともに第1報の基礎データとなった)に、「通し番号12281, 12282, 12283(科名)コガネムシ」として記載されている標本である。芳賀がひがし大雪自然館から標本を借用して検鏡したところ、上記のとおり同定誤りであった。芳賀が上記のリストに基づいて第1報の原稿を作成する際に、科名の「コガネムシ」を種名の「コガネムシ」と読み間違えたことによる誤りである。

上記の収蔵庫標本3頭の誤同定が判明したことにより、上士幌町におけるコガネムシ(*M. splendens*)の記録は、山之内(1975)による「天宝山」のものが唯一となる。この記録は大雪山地を囲む15市町(遠軽町、置戸町、足寄町を除く)全体でも唯一のものとなる(保田 2014)。この状況から、本種が実際に上士幌町内で採集されたのかという疑問も生じざるを得ないが、今後の調査による解明に期待したい。

注1: 川辺百樹氏からの聴取によると、これらのリストは、1980年代以前にひがし大雪博物館の学芸員を勤めた山之内統氏、または山之内氏と同時代にひがし大雪博物館で昆虫学研究に従事した人々による同定結果(展示標本のラベル等)を、博物館の事務職員が電子入力したものである。第二展示室標本リストのファイル名は「第二展示室日本産昆虫(2).xls」で、最終更新日は2006年12月2日。収蔵庫標本のリストは、芳賀の不注意で最初のファイルを残していないが、川辺氏から受け取った際の最終更新日は第二展示室標本のリストと同じ2006年12月2日。

2. 文献記録の評価の訂正

芳賀は第2報において、上士幌町三股から記録された*Synuchus nitidus* (MOTSCHULSKY) オオクロツヤヒラタゴミムシの記録(上士幌町 1996)を疑問記録として扱った。その理由は①本種は主要な文献の全てにおいて北海道には分布しないとされている。②本州以南での生息環境も温暖なヤブツバキクラス域の森林が中心で、三股に類似した亜寒帯針葉樹林帯には生息しない。ということであった。これに対し雛倉正人氏と加藤敏行氏から、オオクロツヤヒラタゴミムシは多くの文献において北海道に分布することが記録されてい

るとのご指摘をいただいた。雛倉氏からは、オオクロツヤヒラタゴミムシは札幌周辺では普通に、東北地方でもかなり山地まで生息し、ヤブツバキ帯のゴミムシと呼ぶには違和感があることのご指摘もいただいた。

①のオオクロツヤヒラタゴミムシの既往の文献記録については全く両氏のご指摘のとおりで、芳賀の誤りであった。すなわちヒラタゴミムシ類の分類の基本文献であるHabu(1978)を始めとする多数の文献に北海道における本種の分布記録が記載されており、宗谷を除く13振興局の管内に本種の記録がある(木元・保田 1995)。

②の生息環境についての所見は、九州、近畿、関東甲信越、東北の諸県における芳賀の経験に基づいて述べたもので、大きく誤ってはいないと現在でも思っている。実際芳賀は、ひがし大雪地域の亜寒帯針葉樹林で延べ50日近く昆虫を採集したが、本種を1頭も採集したことがない。加藤氏(私信)も、道東の標高300m以上の地点および針葉樹林から本種を採集した記憶がないという。本種が上士幌町三股に生息しているとしても、その個体数は非常に少ないと推測される。しかし大雪山地の亜寒帯針葉樹林(エゾマツ・トドマツ群集またはエゾマツ・ダケカンバ群集)に位置する本種の記録地点として、美瑛町白金～上富良野町十勝岳温泉、東川町旭岳、上川町大雪湖・武華トンネル周辺・大雪高原温泉・大雪原生林の6地点がある(松本 1981; 保田 2014)。現時点で上士幌町(1996)の記録の根拠となった標本を実見することができていないので(注2)、上記6地点の記録からの類推により、上士幌町(1996)の記録を信じ、第2報で芳賀が提起した疑義を撤回する。従って上士幌町のファウナにオオクロツヤヒラタゴミムシが追加される。

注2: 川辺百樹氏からの聴取によると、上士幌町(1996)の昆虫の調査は、町から宮下公範氏個人への業務委託として実施された。標本を町に納めるという契約条件ではなかったため、調査で得られた標本はひがし大雪博物館には保存されていない。芳賀は過去に宮下氏と共同で昆虫の調査をしたこともあるが、現在は連絡がとれなくなっており、標本の所在を確認することはできていない。

謝辞

菅原豊氏(音更町)には「カラフトオニヒラタシデムシ」の誤同定の可能性をご指摘いただき、伊藤による標本の再確認に同行していただいた。雛倉正人氏(座間市)、加藤敏行氏(北見市)には、オオクロツ

ヤヒラタゴミムシの分布と生息環境について多くの情報を提供していただいた。乙幡康之氏（ひがし大雪自然館）には、館蔵標本の借用と文献の入手に便宜を図っていただき、ひがし大雪博物館から自然館への改組時の標本移動の経緯についてご教示いただいた。川辺百樹氏（元上士幌町ひがし大雪博物館）にはひがし大雪博物館の所蔵標本リストの作成と上士幌町（1996）による昆虫調査の経緯についてご教示いただいた。著者らは、これらの方々に心からお礼を申しあげる。

引用文献

Habu, A. (1978) *Fauna Japonica. Carabidae: Platynini* (Insecta: Coleoptera). Keigaku Publishing Co., Tokyo.

芳賀馨 (2016)「上士幌町の甲虫類」の訂正と補遺。ひがし大雪自然館研究報告, (3) : 1-35.

芳賀馨・柴多浩一・伊藤勝彦・川辺百樹 (2010) 上士幌町の甲虫類。上士幌町ひがし大雪博物館研究報告, (32) : 1-236.

上士幌町 (1996) 8. 昆虫類・コウチュウ, バッタ, チョウ. 十勝三股集団施設地区自然環境基礎調査報告書. pp. 140-150, 上士幌町.

木元新作・保田信紀 (1995) 北海道の地表性歩行虫類. その生物環境学的アプローチ. 東海大学出版会, 東京.

松本英明 (1981) 北海道のゴミムシ類について (II). *jezoensis*, (8) : 47-68.

山之内統 (1975) 天宝山の昆虫相。ひがし大雪博物館友の会会報, (1) : 33-61.

保田信紀 (2014) 大雪山昆虫誌。北海道自然史研究会, 札幌.

Summary

The authors published an inventory of the Coleopterous species of Kamishihoro Town, Hokkaido on "Bulletin of the Higashi Taisetsu Museum of Natural History", the predecessor of the present journal (Haga, Shibata, Ito & Kawabe, 2010). In this report, the authors made the following correction and supplement for the inventory.

1. The following 2 misidentified species/specimen are eliminated and replaced by the reidentified ones. Based on this correction, *T. lapponicus* is eliminated from the inventory.

(Silphidae) (false) *Thanatophilus lapponicus* (HERBST) → (true) *Thanatophilus sinuatus* (LINNAEUS)

(Scarabaeidae) (false) *Mimela splendens* GYLLENHAL [partim] → (true) *Aphodius rectus* MOTSCHULSKY

2. Based on the newly obtained literature, *Synuchus nitidus* (MOTSCHULSKY) (Carabidae) is added to the inventory.